MUSEUM EYES

ミュージアム・アイズ

Vol. 40

2005 Spring

MEIJI UNIVERSITY MUSEUM

◉特集 **博物館の世界の入り口、展示室に行ってみよう！**

蓬莱文柄鏡

18世紀後半～19世紀前半。「蓬莱」とは中国の伝説上の理想郷を指しており、鶴亀・松竹といった模様と組み合わさり吉祥文（おめでたい模様）を構成しています。「踏み返し」と呼ばれる簡易な製造法を用いて作られた大量生産品で、江戸時代の庶民が普段用いていたものです。詳しくは展示をご覧下さい。

全長29.2cm、重さ137g。18世紀後半～19世紀前半。
明大コレクション（A-135-を）

博物館の一年をふりかえって
—博物館長退職のごあいさつ

2005年度特別展
「江戸時代の大名」準備速報

収蔵室から　神子柴型石斧（縄文時代草創期）

展示のお知らせ
明大コレクションNo.4「江戸時代の蓬莱柄鏡」
写真展「明大考古学の過去と現在」

「エムツー」カタログ

来た・見た・聞いた明治大学博物館

博物館友の会から

明治大学博物館

博物館の世界の入り口、展示室に行ってみよう!

皆さん、明治大学の中にガイドブックや新聞でも取り上げられる様なユニークな博物館があるって知っていましたか?
「大学の中に博物館?!」「大学の博物館なんて難しそう」そう思ったあなた、百聞は一見にしかず。
アカデミー・コモンの地下に足を運んでみてください。常設展示室は無料、さらに土日も開館しています。

今回は博物館の世界への入り口、展示室をご案内します。 Enter

展示室へようこそ

常設展示室のある地下二階に降りると、高い天井と計算されたライティング、美しい展示室に驚かれるかもしれません。展示室は三つの部門から構成されていて、手前から順に商品部門・刑事部門・考古部門と続きます。

商品部門

日頃使っている陶磁器のお湯のみがどうやって作られているか知っていますか? 答えを知りたい方は商品部門へ。ここでは陶磁器や漆器、染織品などの伝統的工芸品が、原材料・部品・製造技法・製造工程・意匠の種別などと共に紹介されています。

刑事部門

次に進むと刑事部門の展示です。古代から明治期までの代表的な法律、江戸時代の捕者道具、海外の拷問・刑罰具が展示されています。歴史的な捕縛具、拷問・刑罰具を収蔵・展示している博物館は日本では大変珍しく、他では見られない物が展示されています。写真は江戸時代の刑罰の道具「鋸引」と「獄門台」です。

考古部門

一番奥が考古部門の展示です。旧石器時代から古墳時代までの遺物が展示されていて、中には重要文化財もあります。銅鐸などもありますよ。"ドウタク"は授業で聞いた事があっても、大きさなどは分からないという方が多いのではないでしょうか?ここなら、本物を間近で見る事ができますから、実際のイメージもつかめます。

ボランティア解説員

「でもなんだか難しそう…」、そんな心配はご無用です。火曜日と金曜日は博物館友の会のボランティア解説員が展示解説をしています。解説を聞くと展示の内容がより深く理解できるので、火曜日と金曜日に展示をご覧になる時にはボランティア解説員に気軽に声をかけてください。

展示にくぎづけ

展示室には若い方からご年配の方まで多くのお客さんが訪れます。個人のお客さんもいらっしゃれば、修学旅行で高校生が訪れることも。写真は大学の授業の一環として学生が見学をしている様子です。
皆、壁に埋め込まれた個性的な展示にくぎづけです。

最後はお買い物

展示室をご覧になった後は、是非ミュージアムショップに!私立大学の博物館でミュージアムショップがあるのは明治大学博物館だけです。他では手に入れる事の出来ないオリジナルグッズも売っています(詳しくは本誌6頁「エムツーカタログ」をご覧ください)。
展示を見て知的好奇心を刺激された方は、学芸員が選書した関連書籍等如何でしょうか。

博物館の一年をふりかえって　―退職のごあいさつ

小晴先生の最終講義には博物館友の会の会員も出席し、先生に花束を贈呈しました。

［館 長］小疇　尚

うららかな春の日差しがよみがえってきました。博物館のあるアカデミーコモンわきのトチの木通りの並木も、冬の眠りからめざめ、若葉を広げはじめています。明治大学博物館も、開館1周年を迎えます。

おかげさまで新博物館は皆さまから温かいご支援をいただき、3月2日に来館者が3万人を突破しました。新聞や雑誌、受験情報誌などマスコミにもとりあげられ、大学の新しい顔として定着して参りましたことを、大変うれしく思っております。大好評をいただいた開館記念の特別展『韓国スヤンゲ遺跡と日本の旧石器時代』、常設展示のほか、博物館公開講座、同入門講座、文部科学省委託事業の『地域子ども教室』も熱心な方々の参加をえて、順調に進めることができました。博物館学の実習生も本学のみでなく他大学からも大勢受け入れました。

新博物館の開館とともに「博物館友の会」も新発足し、展示のガイドや図書資料の整理にボランテアで参加くださっているほか、役員の方々には各種委員会にも出席をお願いして、外部からの声を聞かせていただいています。それらを通じて博物館の活動を側面から支えていただき、感謝しています。

新年度の特別展は『江戸時代の大名』展で、延岡市教育委員会、同内藤記念館の全面的な協力の下に着々と準備が進んでおり、間もなく大名の生活の一端をお目にかけることができるのを楽しみにしています。また昨年は、坂本万七写真研究所から、国宝や重要文化財クラスの仏教美術、考古遺物、陶芸作品を撮影した大量のネガとプリントの寄贈を受けました。数十年前の貴重なものながら保存状態は極めて良好で、重厚な見ごたえのある作品の数々が、モノクローム写真の素晴らしさを再認識させてくれます。これも整理が進めばご披露できるようになると思っています。

そのような折ではありますが、実は私、この3月末をもって大学を定年退職いたします。それにともない博物館長を辞することになりました。わずかな期間ではありましたが、素晴らしい新博物館の運営にかかわることができ、宝物の数々をまぢかに見、多くの方々から興味深いお話をうかがう機会に恵まれことを、大変光栄に思い感謝しています。退職後は野外の自然研究者にもどり、山歩きを楽しみたいと思っています。

今後とも博物館をよろしくお願いします。

特別展準備速報

「江戸時代の大名
～日向国延岡藩内藤家文書の世界～」

2005年度の特別展では、日向国延岡で幕末を向かえた大名「内藤家」を取り上げ、武士であり、治者であり、文化人であった江戸時代の大名の姿を描きます。今回は、刑事部門が収蔵する内藤家や内藤家が治めた領国の事を書き留めた「内藤家文書」と、内藤記念館（延岡市）が収蔵する甲冑や能面などの大名道具を組み合わせて展示を行います。宮崎県延岡市に大切に保存されている内藤家の大名道具を東京で披露するのは初の試みです。

現在、博物館では2005年10月の特別展開幕に向けて着々と準備が進んでいます。2004年6月、10月には当館学芸員が延岡入して現地調査を行い、11月には博物館スタッフと内藤記念館・夕刊デイリー新聞社・本学教職員・博物館友の会からなる企画委員会を開催しました。

皆様にすばらしい展示会をご提供できる事と思います。ご期待ください。

2004年11月特別展企画委員会

収蔵室から

神子柴型石斧
（縄文時代草創期）

今回紹介する資料は、神子柴型石斧と呼ばれる縄文時代草創期の石器です。当資料は茨城県鹿島郡造谷で昭和24年（1949年）に個人住宅立て替えの際、ローム層を掘り返したところ石器が発見され、川上博義氏によって回収されました。周りからは何も出なかったようで、おそらく単独でその場所に遺されたものだったのでしょう。その後、1999年に当館に寄贈されました。

黒色頁岩製で全長26.5cm、幅8.8cm、厚さ4.1cm、重さ1410gと片手で持つには少々荷のはる、重量感のある石器です。石器の素材となった原石を、表裏両面から打ち割わった後、細かな調整によって基部（写真上部）から刃部（写真下部）にかけて、内側にカーブを描くような撥形に仕上げられています。特に基部と刃部は丁寧に加工されており、形に対する強い意識が窺えますが、磨いて形を整えた形跡は見られません。

（表面）

（裏面）

神子柴型石斧は長野県南箕輪町神子柴遺跡で1958年に最初に発見されました。石斧とともに大形の神子柴型尖頭器や石刃、掻器や彫器といった道具類が、直径3mほどの円形に配置されるように出土し、多くの研究者の関心を呼びました。その後、類例の増加により、主に東北地方から関東・中部地方にかけて分布している事が分かってきました。こうした神子柴文化の遺跡は、石斧や石槍といった道具ばかりが残されている場合がほとんどで、旧石器時代のように石器を作る際に生じた石くずが一緒に出土することはまれです。これらの遺跡については住居址や埋納遺構（デポ）、祭祀といった様々な意見が出されています。神子柴文化の石器は、旧石器時代から縄文時代へと移り変わっていく過渡期に残されたのですが、現在ではその出自について、北方からの流入説と日本列島での自生説の二つの意見があり、未だに解決をみていません。こうした多くの“謎”を持つ神子柴文化の石器について、みなさんも一度考えてみてください。

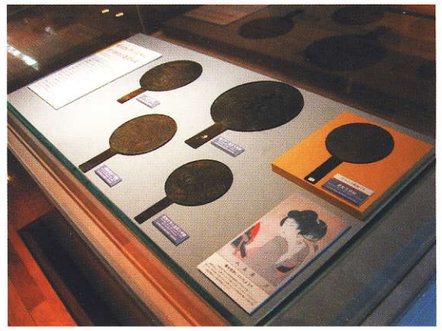
［参考文献］黒沢 浩・島田和高・古屋紀之・鈴木尚史
2001「川上博義氏寄贈の石器時代・古墳時代資料について」『明治大学博物館研究報告』第6号

※なお、『博物館研究報告』第6号では、川上氏の証言をもとに出土地を鹿島郡上太田としましたが、その後鹿島郡造谷出土であることが判明しましたので、ここで訂正いたします。

明大コレクションNo.4

「江戸時代の蓬莱柄鏡」展示中!!

[場所]アカデミーコモン地下1階 明治大学博物館ロビー
[期間]2005年2月1日(火)〜4月28日(木)



明治大学博物館では、約90面にも及ぶ鏡のコレクションを所蔵していますが、今回は西年にちなみ、近世鏡のなかでもツルが多く描かれる蓬莱(ほうらい)文の柄鏡を集めました。蓬莱文とは、古代中国の思想にある空想上の山のひとつ「蓬莱山」を描いたもので、それは、はるか東方に浮かぶ仙人の住む島で、不老不死の実がなる理想郷とされています。江戸時代後期に鏡の文様が吉祥文様(おめでたい図柄)で占められるようになると、その代表として多く用いられました。柄鏡の出現は、神聖な祭具として用いられてきた鏡が、日常用具へと役割を変えた大きな転換期を示すと考えられています。その形、図柄にこめられた意味を、常設展示室の弥生・古墳時代の鏡とぜひ比べてみてください。

写真展『明大考古学の過去と現在』のおしらせ

6月3日から開講される第37回考古学ゼミナール「明大考古学の過去と現在」は、開設55周年を迎えた明大考古学研究室の歩みをたどりながら、明大考古学の最先端を紹介する全5講義の博物館公開講座です。これにあわせて博物館では、写真展『明大考古学の過去と現在』を開催します。戦後考古学をリードした発掘調査の写真や当時の発掘記録をはじめ、いま明大考古学が取り組んでいる発掘調査の成果などを紹介します。

なお、考古学ゼミナール「明大考古学の過去と現在」は、受講生を募集中です。詳しくはリバティ・アカデミー2005年前期総合案内(同事務局Tel 03-3296-4423)をご覧ください。

「神奈川県夏島貝塚の発掘:1950年」

写真展『明大考古学の過去と現在』
[会期]2005年6月1日(水)〜6月30日(木)(土・日・祝日も開館しています)
[会場]特別展示室
[時間]10:00〜16:30(入場16:00まで)

入場無料

「エムツー」カタログ

ミュージアムショップ「エムツー」で販売しているグッズを紹介するこのコーナー。第3弾は、『**オリジナルストラップ**』をご紹介します。

右端の変わったかたちのストラップは、十手を模したもの。平たい十手は、僧侶が読経や説法をする際に持っていたものとか。ちょっと変わったものが好きな方にぜひオススメです! 革製の博物館ロゴ入りストラップは4色からご用意しています。気に入った色を選んで、鞄や携帯につけてみて!

売上ベスト3(12月〜2月)		
第1位	マグカップ	1,470円
第2位	一筆箋	470円
第3位	ミニタオル	525円

価格630円〜

来た・見た・聞いた 明治大学博物館

メディア掲載一覧

資料写真掲載

○資料掲載【「日露旅順口海戦帝国軍大勝利万才」】【ギロチン】
『まるごとわかる365日ものしり百科』(株)日本図書センター
○資料掲載【「三重県暴徒一覧」】『週刊　ビジュアル日本の歴史』(増補版)第46号 (株)デアゴスティーニ・ジャパン
○資料掲載【「会津若松戦争之図」】
『週刊　日本の町並み』第18巻[会津] (株)学習研究社
○資料掲載【「桑橋村宗門御改帳」(天明八年三月)他計2点】
『八千代市の歴史　資料編　近世Ⅳ』八千代市教育委員会
○資料掲載【「江川隼人重傷を負ふ 明治元戊辰 武蔵下総両国之鎮撫」】『総和町史　通史編　近代・現代』総和町
○資料掲載【「万覚書」(天保13年11月26日、『内藤家文書』)他計3点】『九州保健福祉大学研究紀要』九州保健福祉大学
○資料掲載【「甲州北山筋羽黒村御検地水帳」(貞享元年)】
佐藤賢一『近世日本数学史』(財)東京大学出版会
○資料掲載【「今川仮名目録」】
『週刊ビジュアル日本の合戦』(株)講談社
○資料掲載【「白州の図」「遠嶋出船の図」(『徳川幕府刑事図譜』)】
小石房子『江戸の流刑』(株)平凡社
○資料掲載【ニュルンベルクの鉄の処女】『別冊歴史読本「ヨーロッパ　王宮とヒロインの物語」』(株)新人物往来社
○資料掲載【二重石棺(茨城県舟塚古墳出土)】
『季刊　考古学』第90号 (株)雄山閣
○資料掲載【連弧文壺形土器(福島県南御山遺跡)】
『酒と器』(有)海鳥社
○資料掲載【ナイフ形石器(群馬県岩宿遺跡)他計2点】
『群馬の歴史』(株)東京法令出版
○資料掲載【岩宿出土の握槌　他計8点】
井上光貞　改版『日本の歴史』1巻 (株)中央公論新社
○資料掲載【試掘調査風景写真(群馬県岩宿遺跡)】
『北上町史』(通史編)北上町
○資料掲載【土偶(岩手県雨滝遺跡)】【片口付土器(秋田県大湯遺跡)】岡本敏子『岡本太郎の遊ぶ心』(株)講談社
○資料掲載【岩宿遺跡試掘現場】『追憶　相澤忠洋ー1994年9月11日この日に歴史が動いた』相澤忠洋記念館
○資料掲載【①発掘風景(青森県金木遺跡)②遠景(群馬県武井遺跡)】『群馬の遺跡』第1巻 上毛新聞社出版局

●資料放映【生類憐み令】フジテレビ年末時代劇特別企画『徳川綱吉　イヌと呼ばれた男』2004年12月28日
●資料放映【「磔刑取片附の図」(『徳川幕府刑事図譜』)】
テレビ東京「美の巨人たち」2005年1月15日
●資料放映【伊豆石　他計5点】テレビ東京「所さん&おすぎの偉大なるトホホ人物伝」2005年2月11日
●資料放映【尖底土器(神奈川県夏島貝塚)】【釣針(神奈川県夏島貝塚)】フジテレビ「地球45億年の奇跡Ⅱ」

ニュルンベルクの鉄の処女

館紹介等の取材・撮影・掲載(新聞・雑誌)

◇掲載【明治大学博物館】
『アニメージュ』徳間書店 2004年12月10日
◇掲載【明治大学博物館】
『kamzineカムジン』1月号 サンケイスポーツ カムジン編集部 2005年1月8日
◇掲載【明治大学博物館】
『月刊ミュゼ』68号 (株)アム・プロモーション 2005年1月15日
◇掲載【明治大学博物館】
『産経新聞』「こだわりの旅」産業新聞社 2005年2月11日
◇掲載【明治大学博物館】
『info 東京 2005年版』(株)昭文社 2005年2月20日

団体見学の記録 2004年12月〜2005年2月

【一　般】 読売日本文化センター「江戸東京ぶらり散歩」(59名)／松戸市立博物館友の会(40名)／歴史見て歩き同好会(24名)／多元的古代研究会／関東(25名)／中国河北省教育視察団(12名)／財団法人 東京都埋蔵文化財センター(17名)／共立国際交流奨学財団(11名)／市川市立市川考古博物館(20名)

【小・中学校】 川崎市立下布田小学校(15名)

【高等学校】 長崎県立西陵高校(4名)／福岡県立伝習館高校(10名)

【大　学】 明治学院大学芸術学科(25名)／文学部気賀澤ゼミ 文化継承論(17名)／韓国建陽大学(5名)／政治経済学部渡ゼミ(30名)

MUSEUM EYES ミュージアム・アイズ Vol. 40 2005Spring
明治大学博物館 MUSEUM EYES（ミュージアム・アイズ）第40号 〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台1-1 [TEL] 03-3296-4448 [E-mail] museum@mics.meiji.ac.jp [ホームページ] http://www.meiji.ac.jp/museum/
2005年3月18日発行 <印刷> 株式会社サンヨー <第40号製作スタッフ> 日比佳代子・武田友子・船田淀雄

博物館 友の会から

友の会研究会・分科会活動について

博物館友の会は、前身の考古学博物館友の会が考古学博物館の公開講座の参加者の中から、博物館という場でより学習を深めたいという要望から友の会が発足したので、会員の自発的な学習活動を最も大事な活動としてきました。組織的な活動としては、1992年3月に「筒形銅器研究会」を皮切りに、その後、1994年3月に元博物館事務長神崎先生、現事務長伊能先生を講師として「古文書研究会」が活動開始、現在は名前が「古文書を読む会」と替わりましたが活動を継続しています。引き続き「石器文化研究会」、「弥生文化研究会」が活動を開始します。さらに商品博物館の特別展に協力した友の会会員らが「伝統工芸の会」をスタートさせ、刑事博物館所蔵資料を活用する「後世に史料を伝える会」も発足しました。

各研究会ともに、参加者による自主的な運営を基本としており、博物館からも種々なご支援をえて、幅広い活動を展開しております。各会とも毎月の定例研究会の他に、会員による研究発表会、フィールドワークや見学会、館の内外から講師を招いて開く講演会などがあり、さらに博物館収蔵資料の整理への協力も行っております。

現在活動している研究会は次の通りです。

「石器文化研究会」、「弥生文化研究会」、「古文書を読む会」、「平成内藤家文書研究会」、「工芸の会」。

各研究会の詳細な活動については、今後この欄でお知らせできると思います。また、各研究会への参加、また、現在活動している研究会と異なる新たな分野の研究会を立ち上げたいご希望がありましたら、友の会までご連絡下さい。

（明治大学博物館友の会　藤野 正治）

【博物館友の会 連絡先】
〒101-8301 千代田区神田駿河台1-1
明治大学博物館　友の会宛

博物館案内

【開館情報】

開館時間　10:00～16:30（入館16:00まで）

休館日　8/27・28日
夏期休業日（8/10～8/16）
冬季休業日（12/26～1/7）

※開館時間・休館日には変更の場合があります。

観覧料　常設展無料
特別展は有料の場合があります。

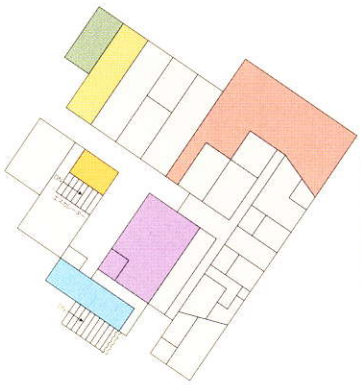
【図書室ご利用案内】

開室時間　月・金　10:00～18:30
（8、9、2、3月は10:00～16:30）
火～木　10:00～16:30
土　10:00～12:30

閉室日　日曜・祝日・大学が定める休日

※図書室はどなたでもご利用いただけます。
※蔵書は原則閲覧・コピーのみとなりますのでご了承ください。

■交通機関
JR御茶ノ水駅（中央線）から徒歩5分
地下鉄御茶ノ水駅（丸の内線）から徒歩8分
地下鉄新御茶ノ水駅（千代田線）から徒歩8分
地下鉄神保町駅（都営新宿線・半蔵門線）から徒歩10分



施設案内（B1）
- 図書室
- 体験学習室
- 博物館教室
- ミュージアム・ショップ
- 特別展示室
- 大学史展示室

編集後記

新博物館も2度目の春を迎えました。より一層充実した博物館になるように少しずつ、しかし着実に歩みを進めたいと思います（ヒビ）。去年の春号の編集を思い出して、感慨深くなる今日この頃です（タ）。資料に対する幅広い知識の必要性を感じました。課題は山積み…頑張ります！（いーだ）